

©Kotone Narikuni



2025シニアレスリング世界選手権大会

令和7年9月13日(土)から21日(日)までの間、クロアチア・ザグレブにおいて「2025シニアレスリング世界選手権大会」が開催され、自衛隊体育学校からは男子フリースタイルに2名、男子グレコローマンに1名、女子レスリングに3名が日本代表として出場し、2名がメダル獲得の成果を収めた。(写真提供：成國琴音)

女子レスリング53kg級の村山春菜(むらやまはるな)2等陸尉は、パリ五輪8位のゼイネプ・イェトギル選手(トルコ)ら3選手を破り、準決勝ではパリ五輪3位で今年のアジア選手権優勝のチェ・フンギョン(北朝鮮)を2-1で下して決勝へ進んだ。決勝戦は、パリ五輪2位のロシア・イエペス選手(エクアドル)と対戦し、5-0で快勝。2023年55kg級以来4度目の世界一に輝いた。なお、53kg級での優勝は2018年大会以来7年ぶりである。

試合後村山2尉は、「オリンピック階級で世界選手権に出られるのは半分諦めていた部分もあったので、この舞台に立てた事と結果を残せたことは嬉しい。いつも支えてくれる家族に優勝した姿を見せることができ、少しでも恩返しになっていれば良い。今後はロス五輪を目標にというよりも目の前のことを一つ一つ乗り越えて、レスリングだけでなく私生活も大切に生きていきたい。」と語った。



4度目の世界一達成!
WW53kg級 2等陸尉 **村山 春菜**

©Kotone Narikuni



55年ぶりの快挙!

FS86kg級 3等陸尉 **石黒 隼士**

©Kotone Narikuni

男子フリースタイル86kg級の石黒隼士(いしぐろはやと)3等陸尉は、1、2回戦を順調に勝ち上がり3回戦ではランキング大会第4戦(ハンガリー)優勝のアルセニ・ジオエフ選手(アゼルバイジャン)を破った。準決勝ではラヒム・マガマドフ選手(フランス)に2-7とリードを奪われたが、アンクルホールドを6回転連続で決めて逆転し、テクニカルスペリオリティで勝利した。決勝戦では、昨年の世界選手権92kg級3位のザヒド・バレンシア選手(米国)と対戦するも、相手の鋭いタックルに対応できず0-12のテクニカルスペリオリティで敗れた。しかし、国際大会において男子80kgを超える階級で日本人選手がファイナルに進出及び銀メダルを獲得したのは55年ぶりの快挙である。

石黒3尉は、「今大会はパリ五輪で悔しい思いをしてから試行錯誤して挑んだ。世界の選手との実力差はあまりないと思うし、日本人は重量級も強いところを証明したかったが、決勝戦では後味の悪い結果になってしまって悔しい。」と悔しさを滲ませた。

